

件名	第4回湯梨浜町泊地域小さな拠点検討協議会		
日時	2016年12月13日(火)18:30~20:00		
場所	湯梨浜町中央公民館泊分館2階大会議室		
出席者	(委員9名) 朝日田 卓朗、山田 志伸、鷺野 星夫、田嶋 昭彦、遠藤 公章、渡邊 由佳、中原 政喜、石井 美佳代、坂田 克 (オブザーバー) ・区長7名 泊1区長 小泉一義、泊2区長 岩本和雄、泊3区長 松田宗春、泊4区長 米村敏男、泊5区長 中尾輝夫、泊6区長 石原清弘、宇谷区長 谷岡一義 ・県中部総合事務所地域振興局 久保田係長 ・地域おこし協力隊 新田雅樹、辺美礼 (事務局) 湯梨浜町役場みらい創造室 山根副町長、岩崎室長、谷岡主事 計 22名		

1. 開会

2. 会長あいさつ

(会長)皆さんのご意見をまとめて実行できるような形でまとめていきたいと考えている。区長方にもご意見を戴きながら進めていきたい。今日もいろんな場面でご意見をいただきたい。テーマは「人口を増やすにはどうすればよいか」、「お年寄りが今後もすみつづけるにはどうすればよいか」。

前回、住宅を確保についてまで話を進めた。次に「教育」について考えていく。

3. 「誰(何)に対し、何をすればよいか」とりまとめ、方針決定

(1)人口増の戦略

■教育、学生

(会長)児童手当を手厚くしてはどうか。

(委員)放課後児童クラブの活動や時間には制約があるので、地域の方に子どもの面倒を見てもらえるようにすれば、融通が利くし、近所づきあいもしやすくなるのではないかと。

(委員)外で遊ぶ子どもを見なくなった。放課後児童クラブで見られている方が、学校内だし安心だからかも知れない。昔は浜で遊んだり野球をしていた。それが良い訳ではないし、人数も減っているのでは仕方ない。

(会長)子どもの遊び方が変わってきていることもあるが、学校の方が安心できる部分もある。泊地域に住んだら、子どもにもメリットがあるということが必要ではないかと。

(委員)小学生の子どもがいる。鳥取大学の地域学部生に来てもらって授業をしてもらおうと面白いと思う。子どもが放課後に学童だけで終わってしまっているのが実情なので、大学生に来てもらい理科の実験をするなどの取り組みがあれば面白そう。勉強だけでなく、地域の方と過ごせるような場所があればいいと思う。

(委員)子育てを思い返して感じることは、塾に通わせるのが難しかった。時間的、金銭的な問題もある。

(会長)中学生の子どもを塾に倉吉まで送迎している。勉強する場所があればかなり違うのでは。

(委員)大学生が地域に来るのは子どもも喜ぶだろうし、いいと思う。

(会長)泊の子は(勉学に励む上で)地理的に不利で大変だと思う。塾に行かずに勉強するというのは難しい。

(委員)泊の学力はどの程度か。親はやはり、学習させたいと思っている。

(委員)今PTAに関わっているが、やはり親からすれば、自然もあっていいが、学力も大事だと言う声も聞かれる。塾など勉強できる場所を提供することも重要だと思う。羽合からの転入制度が始動しているが、もっと外にPRすればいいのではという声もある。

(会長)新たに制度を作るというよりは、既存の取り組みを発信するということか。

(委員)その通り。

(委員)私の子は塾には通わせていない。部活をしている間は通わせないでいる。小学生は習い事やスポーツ少年団があったりと、忙しい。勉強もいいが地域の活動に参加し色々な世代と交流することは良いことだと思う。泊小学校は、昔は珍しい取り組みが多いと有名で県内外から視察にも来ていた。最近はどこも総合学習をしているので特別ではなくなったが、牛を飼ったり、梨を育てたりしていた。大学生も入ってきていた。

(委員)児童が少なくなり維持が難しくなった。梨は年に1度体験を実施している。

(委員)漁協関連では、ちょうど今日、小学生がわかめの養殖体験を実施した。

(会長)地域外からこちらに流入するまでが問題だと考えている。泊だけで子ども手当てを設けるなど特色を出すことは出来ないか。

(事務局)今は中学生まで町内一律の子ども手当てをしている。

(会長)泊だけ優遇するのは難しいか。一律であれば羽合に行ってしまう。

(事務局)泊だけ優遇して手当てを出すことは難しい。

(委員)住めば良い場所だと思うが、きっかけがない。継続してできることといえば、地域の高齢者の力を借りて、子どもの面倒をみるのが出来ると思う。

(会長)県下一緒の条件だと厳しい、何かしら劇的に変わらなくてはいけないと思う。

(区長)スポーツアカデミーなどであれば、行ってみよう。となる。

(会長)何か特別なものがないと。過去の流れのままだと変わらない。

(事務局)学校行事のことでいうと、今年度からふるさと教育を実施している。泊小学校はエンジョイフィッシングを4年～6年生、泊貝がら節体験を3年～6年生、グラウンド・ゴルフ体験は全学年、二十世紀梨の袋かけ、収穫から調理を3年生、わかめの栽培活動は栽培漁業センター、組合の協力を得て3年生が実施した。泊の食の恵みとして、給食食材を提供している方を呼んだ交流については全学年で実施している。今までも特色のある取り組みを行っていたが、新たにふるさと教育として実施している。

(委員)町からの金銭的な優遇は難しいようだ。

(会長)いそなぎ団地であれば、入居される方に向けた優遇があるが、そのように泊に転居する方向けにも考えられると思うが難しいか。

(事務局)先に行政側がストップをかけるよりも皆さんで色々案を考えていただいて検討したい。

(会長)漁村センターなどの既存施設の活用も考えなくてはいけないので、塾などもそこに入れることも案としては考えられる。

(区長)小規模多機能(富山方式)で高齢者、子どもが交流できる場所づくりなどが色々な地域で行われている。それをやってみる価値はあると思う。高齢者や地域の人が集れるカフェを開くのもいいと思う。

■人を呼び込む

(委員)グラウンド・ゴルフ場や釣り場、サーファーが集るが、お金を落とす場所がない。釣具店が増えたり、グラウンド・ゴルフの専門ショップや、食事場所が出来れば経済効果は上がると思う。それだけ利便性がよければ人も集ると思う。

(委員)泊カフェについては、海水浴場があったり、サーファーが集まったり、週末人が集まるから、カフェなど立ち寄れる場所ができれば良いと思う。海水浴の時しか海の家がないから。

(会長)現在、石脇には海晴館とCROWDがあり、サーファーのお客さんが入っていると聞いている。

ラウンドワンなど商業施設が来れば人が集まると思って提案した。

(委員)グラウンド・ゴルフや釣りなどお金を使わない遊びを楽しむ人たちは、慣れているので、プレーが終わればお金を落とすことなく帰ると思う。

- (区長)グラウンド・ゴルフの試合は平日が多く、試合によっては昼に終わり、弁当を持参した人は食べて帰っている。
- (委員)今の競技者だけでなく、家族や仲間内でも簡単に使えるようにできれば、食堂や専門店で寄ると思う。確かに、競技趣向が強い方はすぐに帰る形だと思う。
- (会長)産業振興課の方で、「海の駅とまり」という、人がくる仕掛けが出来ないかという会が始動する。泊にある拠点同士の横のつながりが出来れば人が集るのではないかという話にはなっている。来た人が、横に流れる仕組みを作ればと思う。
- (委員)泊の中での立ち寄り場所や食事が出来る場所が知られていない。合併前は泊村のガイドマップがあったが、今は合併して埋もれてしまったので、横のつながり(マップなど)があればいいと思う。
- (委員)現在、潮風の丘が夜間利用中止になってしまったので、活用できればいいのではないか。白兔海岸付近(小沢見)はサーファーが多く集っている。人を集める魅力やイベントがあればいいと思う。
- (会長)石脇もサーファーにとって良い場所だと聞いた。昔、西日本大会をやった。
- (委員)たまに CROWD SURF がイベントなど行っている。
- (会長)イベントをするときには手伝いに行くなどできればいいと思う。
- (委員)横のつながりがあれば集客は出来るし、京都などの関西圏からも人が集るとは思う。さらに、住民とのつながりも出るかもしれない。
- (委員)足湯を設置するだけでも寄ってもらえたり、お金を落とす前に、滞在してもらえらる仕掛けになると思う。
- (委員)大漁まつりは人気だが、天候に大きく左右されるので、毎月実施となると難しいが、季節が限定でもよければ回数を増やすことは出来るかもしれない。
- (会長)栽培漁業センターなどは、中にも入れてもらえるし、天候に応じて対応できるし、回数を増やすことは可能かもしれない。海の資源を生かすという意味で漁師さんが一緒に行ってスキューバダイビングをするなど良いかもしれない。
- (委員)遊覧船は人気なので、増やしてもいいと思う。
- (委員)初心者でも、海に潜って触れられるアクティビティがあればいいなと思う。親も潜れなかったり、知らないことが多いと思うので、教えてくれる機会があれば喜ぶと思う。夏休みの自由研究に向けて、採ってみて水槽に入れるなどしても楽しい。
- (会長)海やグラウンド・ゴルフは活用したいし、考えていかななくてはいけないだろう。
- (区長)大漁まつりは良かったと皆さん言われる。イベントの際にいらっしゃる方々に向けて、泊に住みませんか、とPRすることが大事だと思う。大きな看板を出すとか。グラウンド・ゴルフも一度すれば終わりとなってしまうので、盛んになれば自然と人口増につながるのかは分からない。

(2) 高齢者のための戦略

■ 買い物

- (会長)高齢者に限らず買い物する場所がない、移動できないという声がある。移動販売に頼る形になっている。
- (委員)独居の高齢者は困っている。例えばタブレットを渡して、配達できるような大きいシステムを取り入れてもいいと思う。今後ますます独居の高齢者が増えるので、どうだろうか。
- (会長)12月1日の新聞に、独居になることについて親世代は半分、子ども世代は7割が不安だということがあがっていた。地震があって独居に対する意識が変わったと思う。つわぶき荘が出来たときには利用が少なかったと聞いたが今はそうではないかも知れない。
- (委員)1人部屋2室と2人部屋2室があるが、利用しようとすれば改造が必要で、今後、どう活用するのか、検討する必要がある。

(会長)泊地域の独居高齢者はどの程度か。

(委員)増える傾向にあることは間違いない。サ高住という手もある。羽合、東郷にもあるが、地元の方、県外の方も居る。現在は、愛の輪推進員など、独居高齢者の見守りをしている。福祉推進員、民生委員もいるが、それらの情報共有が少ないことが、泊だけではなく、羽合、東郷も問題になっている。自主防災組織のあり方自体の検討が必要という話が出ている。

(会長)地震の時は泊では、はまなすが避難場所になっていたが、実際利用は多かったのか。

(事務局)泊地区は家に帰られるのが早かった。日中家に居て、夜に避難所に行く方も居たようだ。

(会長)不安感が高齢になるほど募ると思う。自分の親が心配だし、そうなると集合住宅などがあればいいかなと思う。

(委員)CCRC の考え方が必要になってくる。

(事務局)CCRC はアメリカで始まったもので、リタイア後にコミュニティを作ることを指すが、日本の場合は、生涯活躍しようということで、50 歳以上の方が対象になる。しかし、「生涯」なので、若い方も含めて元気な方を、魅力を作ることと呼び込むということを進める。当然住んでいる方にとっても魅力的であることが必要で、体が不自由になっても住み続けられるように作っていかうという動きです。町全体同時に進めるのは難しいので、モデル地域から始める。幸い湯梨浜町は、福祉・医療施設がある程度あるが、泊の場合は少ないのは事実です。本来は、地元の方が住み続けたいな、と感じてもらえることが重要で、ケアが整った地域づくりにつながってくる。

(区長)私は、泊地区外から来たがいいところだとはあまり思わない。幼少期から住んでいれば、思わないと思うが、近年極端に人口が減り、魅力が減っているし、活力がない。昔は、漁師が昼も夜も魚を捕るなど活気があった。今、あまりにも多くの機能を集約しようとしているので、私はついていけないところもある。上層部でワイワイ言っても駄目で、下の方(住民)から持ち上げないと、「今更何を言っているのか」となってしまうので、周知が必要だ。

(会長)現状、幸せに普通に生活をしているということを出していかなくてはいけない。高齢者もなかなか外に出て行くことは難しいと思うが、環境を整備することで、出来ていくと思う。

(委員)確かに第一印象は目に飛び込んでくるものがない。駅や小学校があることがいいところで、子どもを住ませたいと思う町を作ることが望ましいと思う。とりあえず小学校が残る方法を考えていく必要があると思う。何人くらいになれば廃校になるのか。

(委員)児童数が120人を切ると国から言われる可能性があると聞いたことがある。泊小学校は今108人。今は極端に減少しているが、今後80~90人くらいで落ち着くと思う。町としては泊小学校を存続させたいようだ。

(会長)まずは子どもが必要だ。駅があり、学校があるし、インターもある。ただ、住むところがないので難しい。

(委員)学力が上がれば県外に出てしまい親が独居になってしまう。学歴が付いてしまうと県外に居ついでしまうので心配だ。

(会長)中には帰ってくる人もいるが、若い世代が出て行ってしまう。

(委員)高齢者の交通についてだが、事故があったら困るので、車の運転をやめさせたい気持ちもある。今まで住んでいる方は住めているし、社協もいるので、そこまで手厚くする必要はないのではないかなと思う。

(委員)買い物するにも足がないので運転をしなくてはいけない。例えば、運転をする人、買い物に行きたい人を登録制で募り、当番の人が要望に応じて買い物に連れて行くなど、社協ばかりに頼らず町ぐるみの動きをすればどうかと思う。

(委員)社協でも会員制で買い物支援バスを運行している。バスは元気な方が基本。また、ヘルパー利用されている方は、1回/月で買い物同行している。介護が必要な方が通院するなどの移送サービスを出来る介護の事業所が町内に今ない。制度としてしようとすると、法的規制がかかるが、地域として買い物支援を進

めることができるのではないかという案は出ている。買い物方法は色々あるが(ネット、カタログなど)、高齢者も、店に行って手に取ってみながら買い物がしたいという声が多い。

(委員)漁業は定年がなく高齢化しているが、利便性を考えると都会には敵わない。自分が田舎に行きたいと思ったのは、自分がしたい仕事があったからであって、そこに力を入れてあげることがいいと思う。必要最低限の医療機関があるなどは必要だと思うし、リタイア後に楽しめる生きがいがあればいいと思う。

(委員)高齢者の中にも色々な方がいらっしゃるの、高齢者も分けて考えたほうがいいと思う。ボランティアもいいと思うが、継続性が難しいと思う。有償ボランティアなど、地域通貨を使用したシステムを使うなど、安いけど何かしらインセンティブを与えることが良いと思う。婦人部や女性部のような組織化があってもいいと思う。

(委員)婦人会もだんだん高齢化し、若い人もあまり入ろうとしない。ママ友同士は、自分たちの楽しい時間を作りたいのではないかなと思う。家に帰ればストレスもあるだろうし、他に力を注ぐ余裕があるのかは分からない。

(会長)昔は、さまざまな団体があつたが、現在は減ってきている。

(委員)日曜日に地区の決算総会で集つたが、ほとんどが高齢者で女性はあまり出てこず 9割が男性。高齢の方は元気で、若者が何人かいたとしても、なかなか出て行けない。30世帯中5世帯ほど独居で、高齢化が進んでいる。他の地域とも離れており、交流も少ない。総会の時に休耕地があるので、区でまとめて生産しないかという声の上の方から出てきた。上の人たちの中にも、やろうと言う声があるので、情報交換できる状態を作ることが、自分たちのやるべきことかなと思った。世代間のつながりがあれば良いかなと思ったし、生きがいも必要だと思った。技術を生かして少しでも儲けることが出来ればいいと思う。

(会長)高齢者の中にも思っている人がいるが、声になっていなかった。この協議会などを通して形にしていけないといけない。的を絞って行って整備していかななくてはいけないことを現実的に考えていく必要がある。今後、方向性などを決めていきたいと思う。

4. その他

■視察について

(事務局)年度があり3月までなので、どこに行きたいという提案をいただければありがたい。先方との調整も必要なので、1箇所ではなく数箇所検討いただきたい。

(会長)では、次回までに視察先を検討したい。

(委員)整理して、委員の皆様へ配信するので、それを見てご検討いただきたい。

(会長)区長さん方には区での初寄り合いで区の方々にお話いただければありがたいですし、ご意見いただければお願いしたい。

(事務局)役場主導の雰囲気当初はあつたが、今日は明らかに住民主導になっている。今後も進めていただきたい。年明けもよろしく願いいたします。

(オブザーバー)現在、琴浦町でも小さな拠点の検討が行われているが、そこでは旧保育園の活用を検討しており、健康体操などで集まる時に移動販売に来てもらうなどの案が出ているところ。

■次回開催

1月20日 18:00～ 海晴館